

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
社会科学演習	西川 昇吾	演習	4		1, 2, 3, 4	1, 2, 3, 5	2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>本演習では、社会科学、とりわけ労働法学に関する争点・課題について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一団となって研究・討議し、それらを成果として最終的に文章化する。具体的には、毎回、原則として学生1名が、自ら決定した主題に関する判例や法律文献等について報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。</p> <p>それにより、労働法学に関する諸問題について調査・考察しうる力を養うとともに、自説の打ち立てられた卒業論文を作成することが、本演習の目的である。</p>						
到達目標	<p>① 裁判所の認定事実・判旨を正確に把握でき、それらを他者へ段階的に説明することができる。</p> <p>② 自己や他者の主題に対して、直観的立場や分析視角をもつことができる。</p> <p>③ 自己の主題に対する自説を構想し、それを文章で表現・説明しうる力を獲得する。</p>						
回	学習内容		回	学習内容			
1	研究倫理の確認／検討判例の選定・報告順の決定		16	組合活動に関する判例の研究			
2	労働協約に関する判例の研究		17	争議行為に関する判例の研究			
3	労働法の総論に関する判例の研究		18	不当労働行為に関する判例の研究			
4	労働者の人格保護・雇用平等に関する判例の研究		19	障害者雇用の法政策に関する判例の研究			
5	労働契約に関する判例の研究		20	雇用平等に関する法律文献の研究			
6	賃金に関する判例の研究		21	労働契約に関する法律文献の研究			
7	労働時間に関する判例の研究		22	賃金に関する法律文献の研究			
8	争議行為に関する判例の研究		23	労働時間に関する法律文献の研究			
9	労働災害に関する判例の研究		24	労働災害に関する法律文献の研究			
10	労働条件の変更に関する判例の研究		25	卒業論文の執筆方法			
11	企業組織の変動に関する判例の研究		26	雇用平等に関する卒業論文の報告			
12	非典型雇用に関する判例の研究		27	労働契約に関する卒業論文の報告			
13	労働組合に関する判例の研究		28	賃金に関する卒業論文の報告			
14	団体交渉に関する判例の研究		29	労働時間に関する卒業論文の報告			
15	法律文献の研究手法		30	労働災害に関する卒業論文の報告			
予習内容 復習内容	ゼミ生自らが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。						
教科書	ジュリスト増刊『新・法律学の争点シリーズ7 労働法の争点』（有斐閣、2014年）、および『六法』が必要である。						
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、卒業論文（調査結果の整理、論点の解明、自説の展開等の可否）50%により、成績評価を行う。						
実務経験							
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、自己の主題だけでなく、他者の主題に関する基本的な知識についても、事前に理解したうえで、演習に臨んでほしい。						